

さくらインターネット株式会社（3778） 2012年3月期第1四半期 決算説明会

代表取締役社長 田中邦裕

2011年7月26日

さくらインターネット株式会社

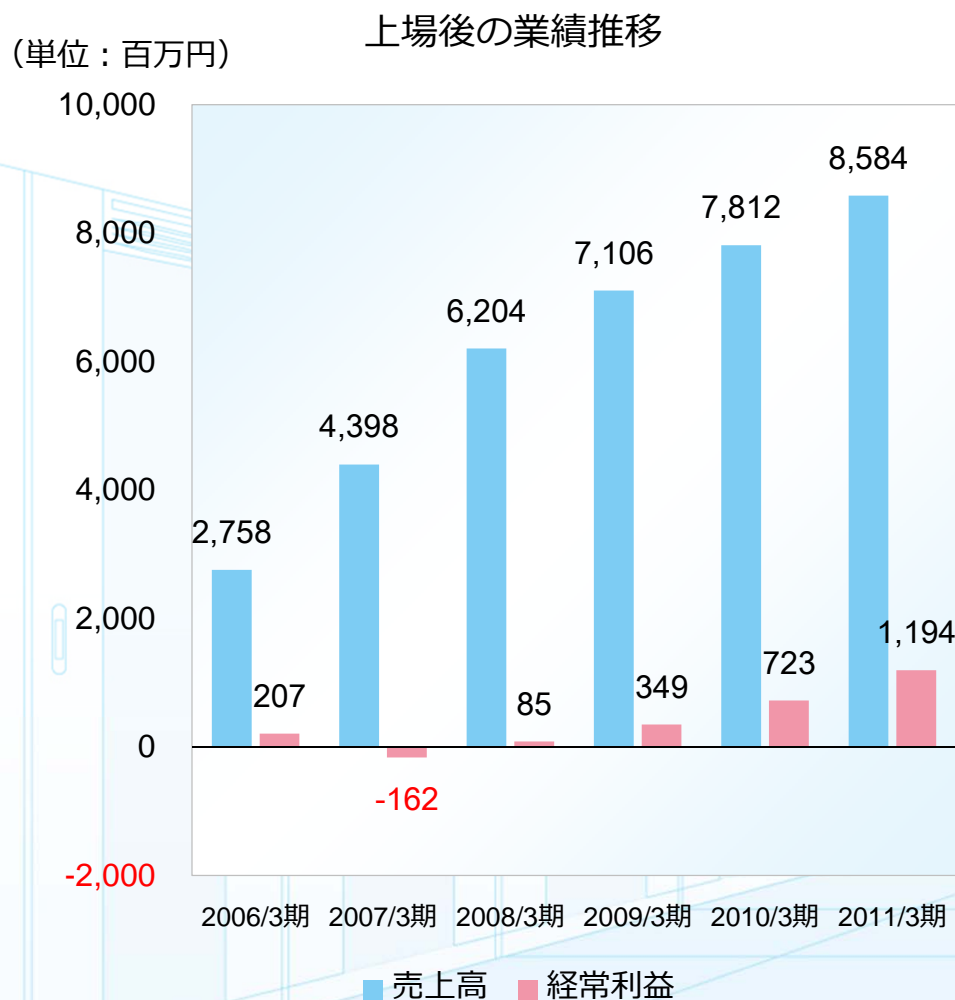
(C)Copyright 1996-2011 SAKURA Internet Inc.

I.	さくらインターネットについて	P.3
II.	業績概要	P.6
III.	今後の展望	P.18
	付録	P.31

I. さくらインターネットについて

1. 会社プロフィール

- 2005年10月に東証マザーズへ上場し、その後も着実に事業成長を続ける



商号	さくらインターネット株式会社
本社所在地	大阪市中央区南本町一丁目8番14号
設立年月日	1999年8月17日 (サービス開始は1996年12月23日)
取締役	代表取締役 社長 田中 邦裕 取締役 副社長 舘野 正明 取締役 川田 正貴 取締役 村上 宗久 取締役(社外) 瓦谷 晋一
上場年月日	2005年10月12日 (東証マザーズ)
決算	3月末日
資本金	8億9,530万円
従業員数	172名

(※2011年6月30日現在)

2. 事業ドメイン

- 国内インターネットの黎明期から、コロケーションとホスティングの双方を提供

柔軟性・拡張性（高） / 導入簡便性（低）

柔軟性・拡張性（低） / 導入簡便性（高）

収益性（低） / サービス単価（高）

収益性（高） / サービス単価（低）

【コロケーション】

サービス提供者が運営するデータセンター内に、顧客が所有する通信機器類やサーバなどの設置スペースを提供するサービス

オープンスペース単位

個室（ケージ）単位



ラック単位
ハウジング
サービス

【ホスティング】

サービス提供者が管理・運用する通信機器類やサーバなどを、Web上で顧客に貸与するサービス



当社の事業ドメイン

専有
ホスティング
専用サーバ
サービス

仮想化
ホスティング
VPS
サービス

共有
ホスティング
レンタルサーバ
サービス

II.業績概要

1. 損益計算書

(金額：百万円)

科目名	2011/3期				2012/3期 Q1会計	YoY		QoQ	
	Q1会計	Q2会計	Q3会計	Q4会計		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	2,094	2,117	2,157	2,215	2,272	177	8.5	56	2.5
売上総利益	706	714 ①	698	696	736	29	4.1	39	5.7
対売上比率	33.8	33.8	32.4	31.4	32.4				
営業利益	314	340	291	279	310	-4	-1.3	30	11.1
対売上比率	15.0	16.1	13.5	12.6	13.6				
経常利益	309	336	277	271	299	-9	-3.2	28	10.5
対売上比率	14.8	15.9	12.9	12.2	13.2				
四半期純利益	108	190	160	113	② 229	120	111.5	115	102.0
対売上比率	5.2	9.0	7.4	5.1	10.1				

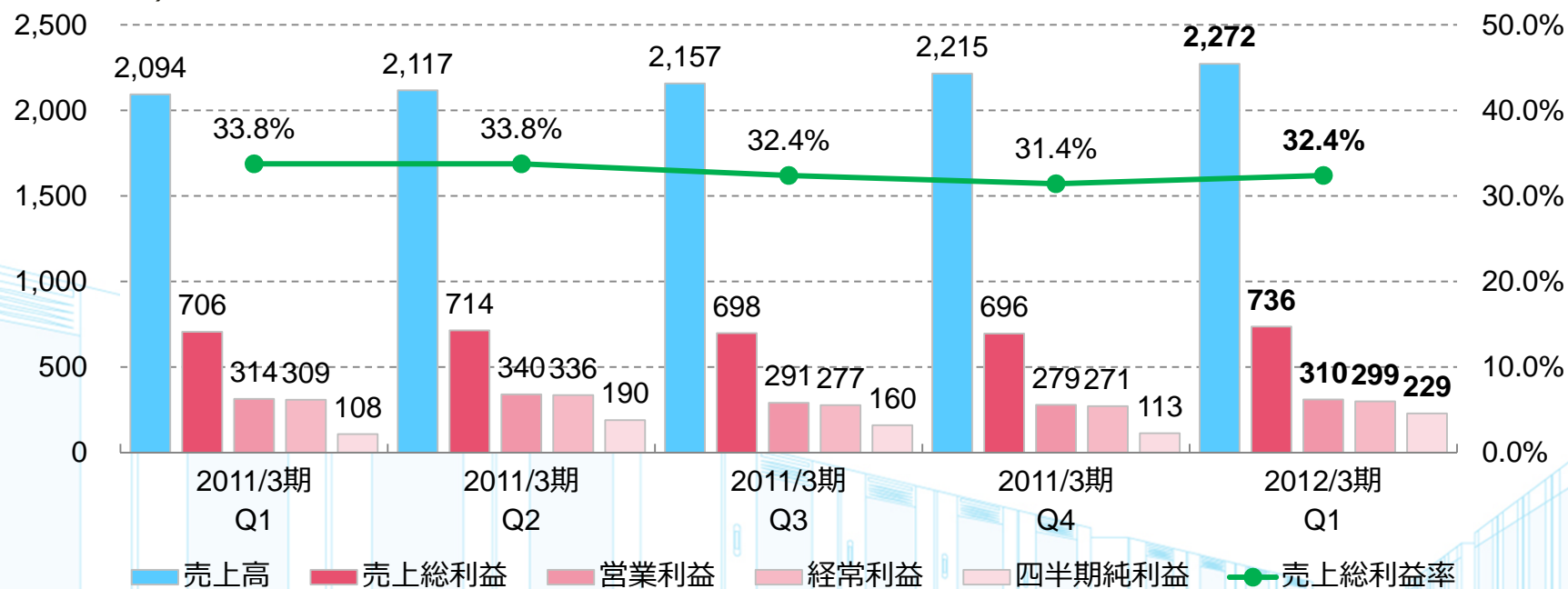
※対売上比率、増減率の単位は%

<主な要因>

- ① 堂島データセンターのフロア拡張やラック増設による固定費増加の影響
- ② 新株予約権戻入益の計上

1. 損益計算書

(金額：百万円)



時期	トピック	売上への影響	利益への影響
2010年9月	「さくらのVPS」提供開始	↑	
2010年11月	堂島データセンター、拡張フロアの運用開始		↓
2011年3月	堂島データセンター、サーバラック増設		↓
2011年3月	「さくらのVPS」「さくらのマネージドサーバ」上位プランを投入	↑	↑

- サーバなど（工具、器具及び備品）の減価償却費（定率法）負担が減少し、利益率は前四半期から改善

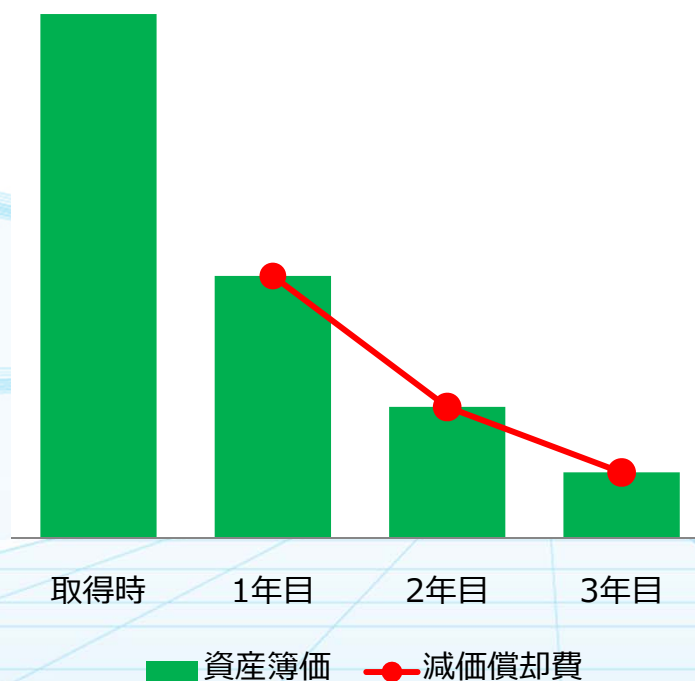
1. 損益計算書（固定資産の減価償却の方法）

- リース資産を除く、有形固定資産の減価償却については**定率法**を採用
 - データセンター事業に関する有形固定資産には、**技術革新が早く陳腐化リスクが高い器材**も存在するため

固定資産の減価償却の方法

科目	償却方法
有形固定資産 (リース資産除く)	定率法
無形固定資産	定額法
リース資産	定額法
長期前払費用	定額法

当社サーバ類の減価償却イメージ

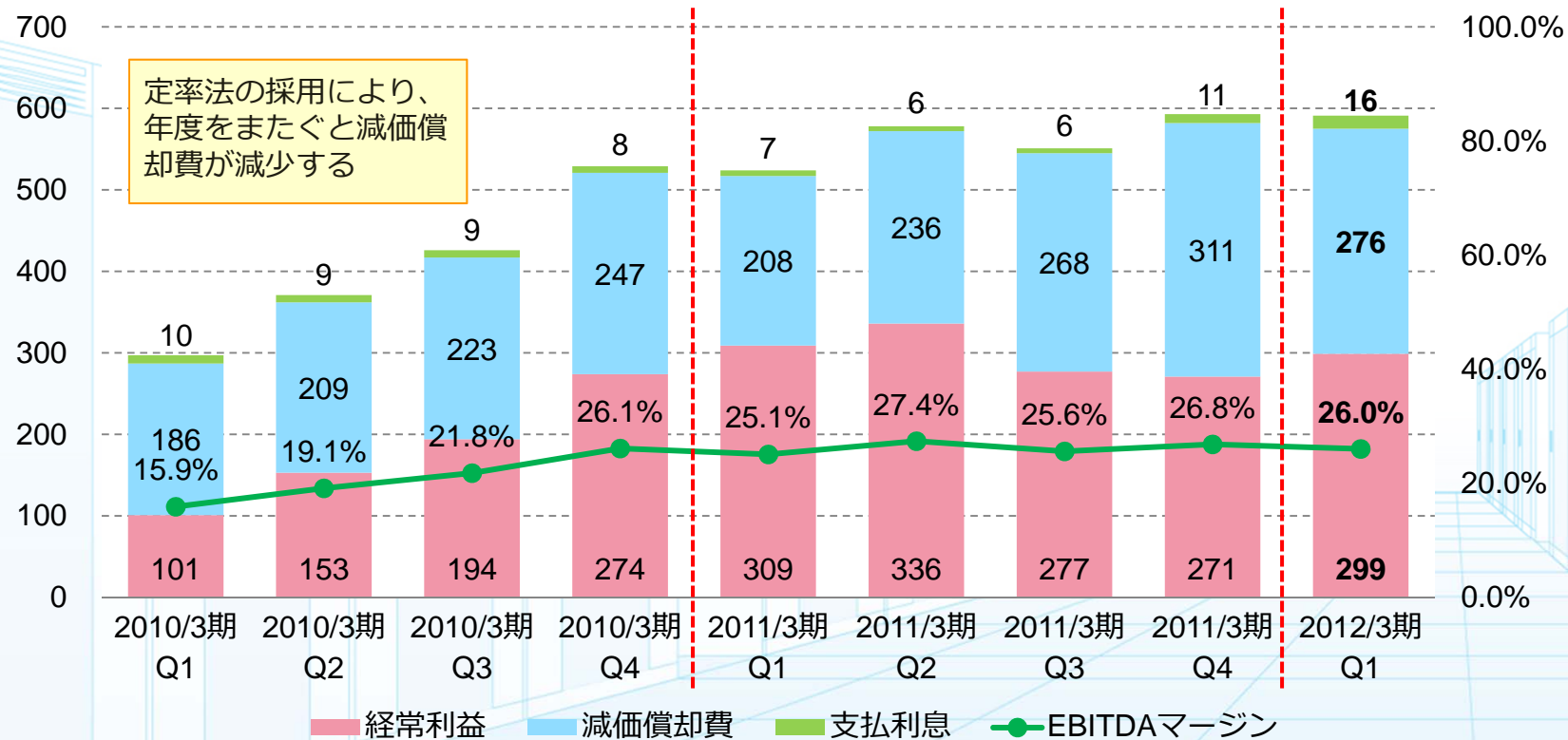


1. 損益計算書 (EBITDA)

- 堂島データセンターのフロア拡張やラック増設により、前第3・4四半期に利益額が減少したものの、EBITDAマージンは一定の水準をキープ

(単位：百万円)

EBITDA 四半期推移



定率法の採用により、年度をまたぐと減価償却費が減少する

(※) EBITDAマージン = (経常利益 + 減価償却費 + 支払利息) ÷ 売上高

2. サービス別売上高

- 当社サービスの新たな軸として、「その他サービス」に含めていた「VPSサービス」を新たに独立表記

旧分類

(単位：百万円)

サービス名称	2011/3期 売上高
ハウジングサービス	3,019
専用サーバサービス	3,184
レンタルサーバサービス	1,469
その他サービス	910

独立

新分類

(単位：百万円)

サービス名称	2011/3期 売上高
ハウジングサービス	3,019
専用サーバサービス	3,184
レンタルサーバサービス	1,469
VPSサービス	36
その他サービス	874

2. サービス別売上高

(金額：百万円)

科目名	2011/3期				2012/3期 Q1会計	YoY		QoQ	
	Q1会計	Q2会計	Q3会計	Q4会計		増減額	増減率	増減額	増減率
ハウジング	750	758	754	756	757	6	0.9	0	0.1
対売上比率	35.8	35.8	35.0	34.1	33.3				
専用サーバ	772	788	798	825	① 821	49	6.4	-3	-0.4
対売上比率	36.9	37.2	37.0	37.2	36.2				
レンタルサーバ	344	361	375	388	404	60	17.4	15	3.9
対売上比率	16.4	17.1	17.4	17.6	17.8				
VPS		0	10	25	② 67	67	-	42	165.6
対売上比率		0.0	0.5	1.1	3.0				
その他	227	208	218	219	221	-5	-2.5	1	0.7
対売上比率	10.8	9.8	10.1	9.9	9.7				

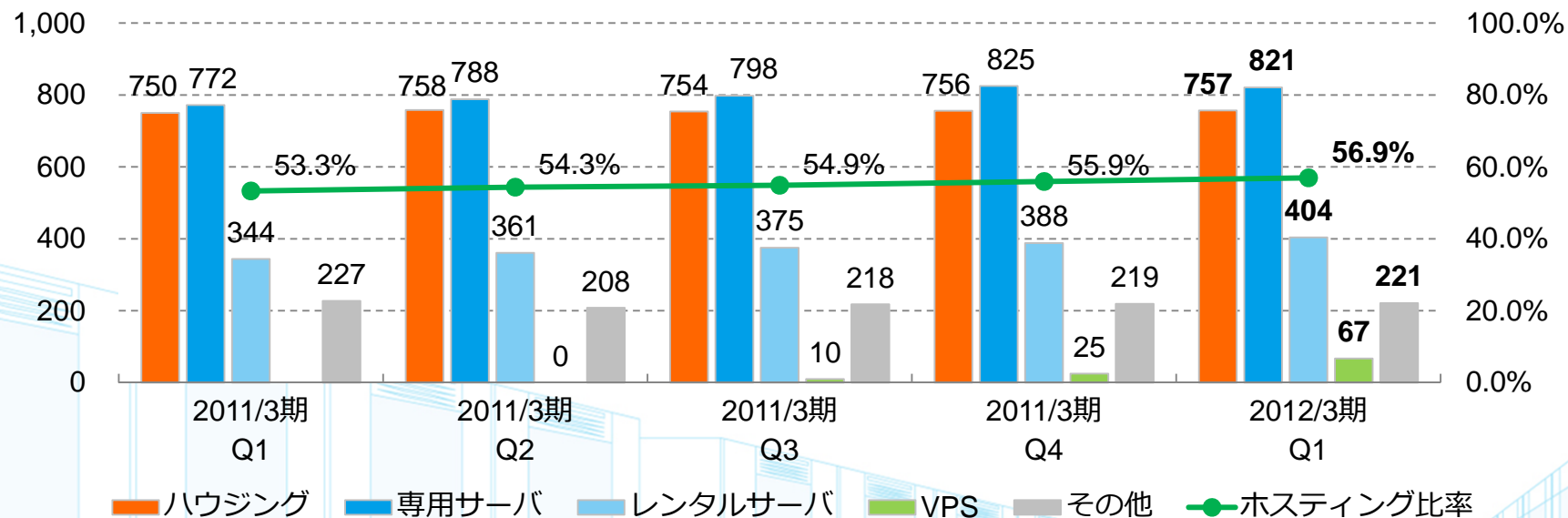
※対売上比率、増減率の単位は%

<主な要因>

- ① 「さくらのVPS」や他社クラウドサービスとの競合
- ② 「さくらのVPS」上位プランの提供により、顧客単価が大きく上昇

2. サービス別売上高

(金額：百万円)



(※) ホスティング比率 = (専用サーバ + レンタルサーバ + VPS) ÷ 売上高

時期	トピック
2010年6月	「さくらのマネージドサーバ」上位プランを投入
2010年9月	「さくらのVPS」提供開始
2011年2月	専用サーバ、ハイエンドモデルを追加
2011年3月	「さくらのVPS」「さくらのマネージドサーバ」上位プランを投入

- 専用サーバの売上高は前四半期から減少したものの、VPSの急成長がホスティング全体の売上を伸ばす

3. 貸借対照表

(金額：百万円)

科目名	2011/3期 Q4末	2012/3期 Q1末	増減額	科目名	2011/3期 Q4末	2012/3期 Q1末	増減額
流動資産	4,714	3,149	① -1,565	流動負債	3,683	3,390	③ -293
固定資産	5,094	6,318	1,224	固定負債	3,841	3,666	④ -174
(有形固定資産)	4,464	5,706	② 1,241	負債合計	7,525	7,056	-468
(無形固定資産)	129	125	-3	純資産	2,284	2,411	127
(投資その他資産)	500	486	-13	(株主資本)	2,225	2,411	⑤ 185
資産合計	9,809	9,467	-341	負債純資産合計	9,809	9,467	-341

<主な要因>

- ① 設備投資に係る債務の支払による現預金の減少
- ② 石狩データセンターの建設仮勘定の増加
堂島データセンターの拡張したフロアに設置した器材の増加
- ③ 法人税の納付
- ④ 長期借入金の返済
- ⑤ 利益の積立て

4. キャッシュ・フロー計算書

(金額：百万円)

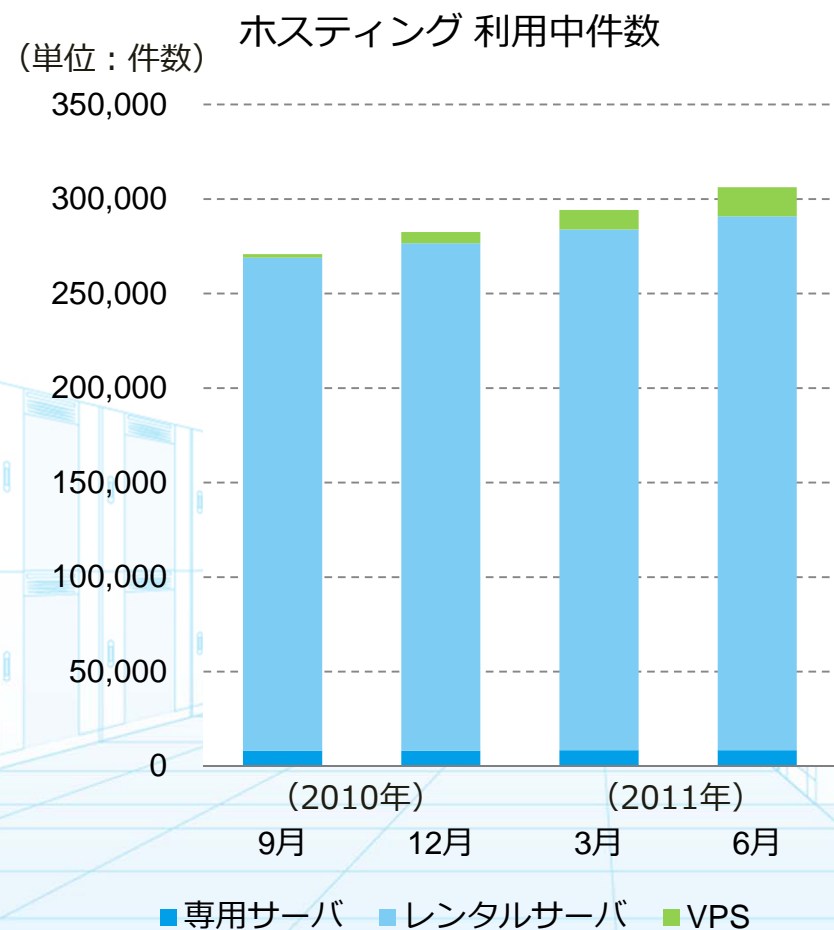
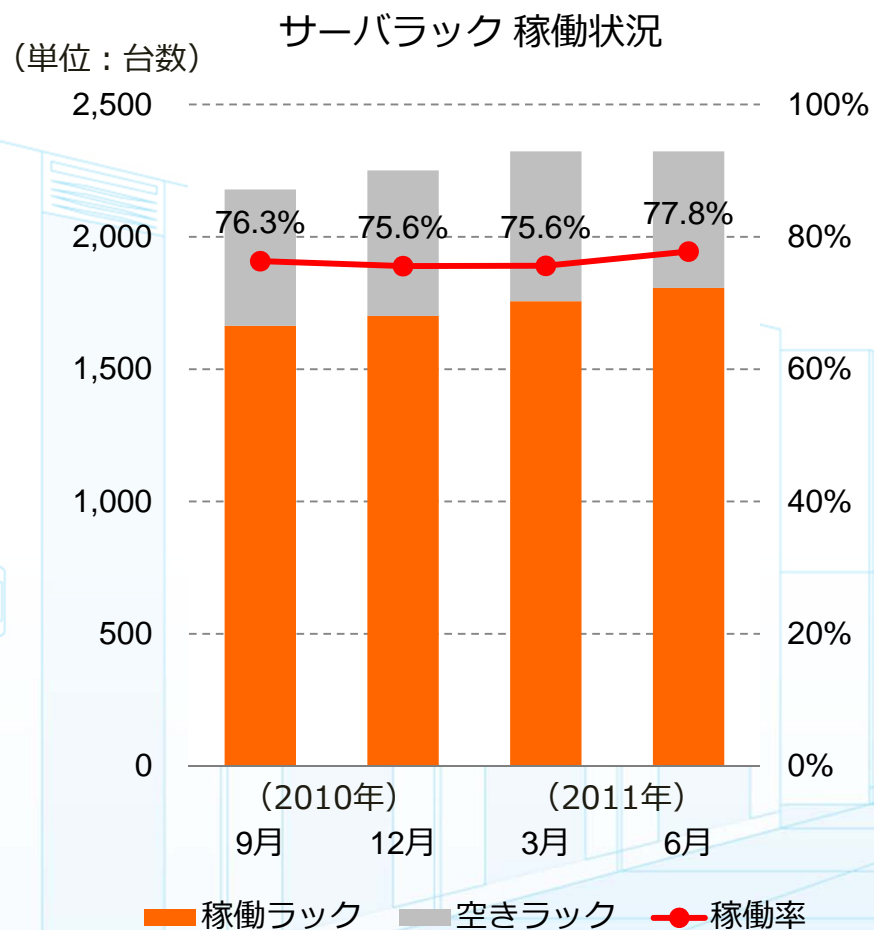
科目名	2011/3期				2012/3期 Q1累計	YoY 増減額	QoQ 増減額
	Q1会計	Q2会計	Q3会計	Q4会計			
営業CF	493	503	567	640	① 297	-195	-342
投資CF	-271	-238	② -639	-1,426	-1,516	-1,245	-90
営業CF－投資CF	222	265	-72	-785	-1,219	-1,441	-433
財務CF	-165	-143	③ 249	2,955	-191	-25	-3,146
現金等の増加額	56	122	177	2,169	-1,408	-1,465	-3,578
現金等の残高	1,228	1,351	1,528	3,698	2,289		

<主な要因>

- ① 繰越欠損金との相殺が無くなったことによる、法人税等の支払額増加
- ② 堂島データセンターのフロア拡張や石狩データセンターの用地取得・建設に伴う設備投資の増加
- ③ 石狩データセンターの建設資金調達を目的とした長期借入れによる収入

5. 事業指標

- 安定したサーバラックの稼働状況と、着実な成長を続けるホスティングサービス



6. 2011年4月～7月の主なトピック

事業 サービス

- カスタマーセンター、メールお問合せ窓口の**営業時間拡大**（土日祝日も対応）

IT インフラ

- 石狩データセンター、**電力効率の高い給電システム**（高電圧直流）の採用を決定

財務 資本

- 株式の**200分割**を決定（2011年10月1日より）

震災 関連

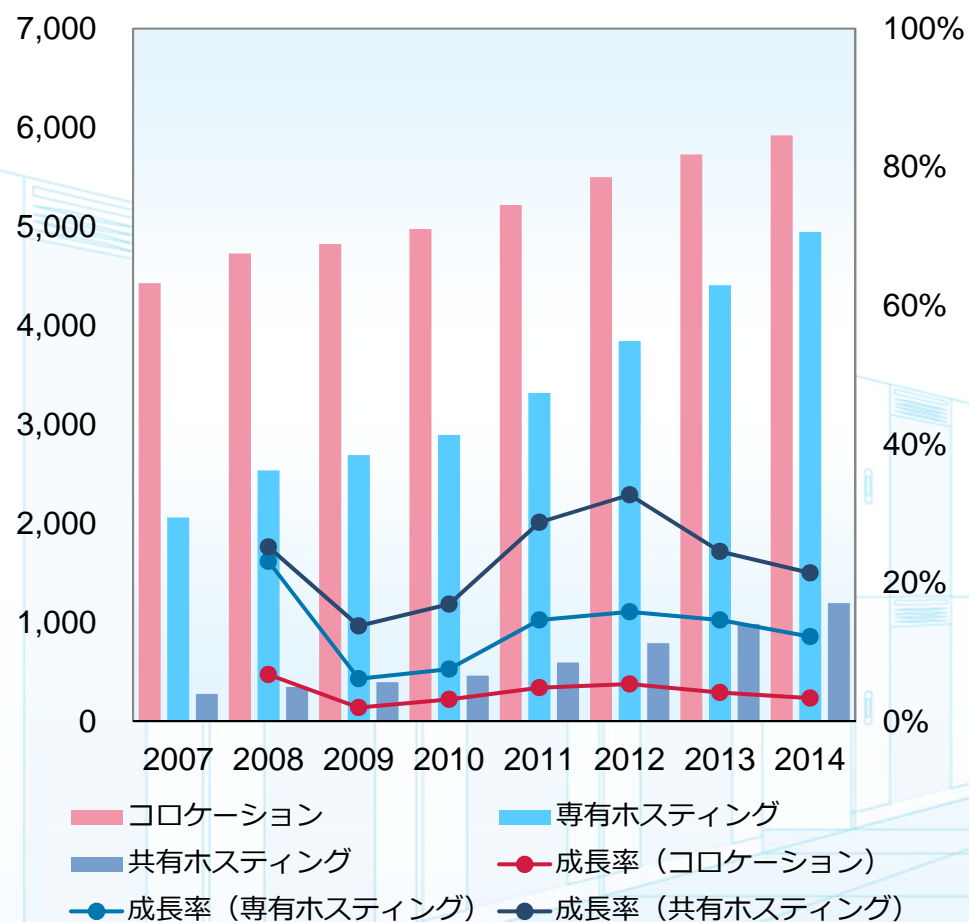
- 電力使用制限令
 - データセンターについては**緩和対象**
現時点で、運用に支障をきたす指示は無いが、引き続き節電に努める
- 受注に与えた影響
 - BCP/DR需要の高まりが、当社の**受注活動にも影響**

III. 今後の展望

1. 市場展望

国内データセンターアウトソーシング
市場規模予測

(単位：億円)

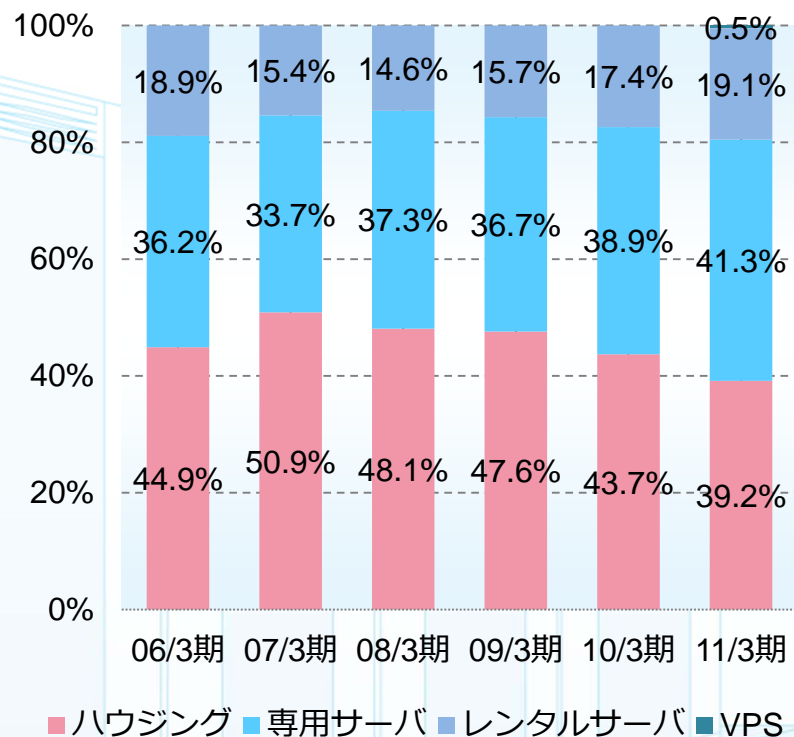


出典：IDC Japan, 2010年9月「国内データセンターアウトソーシング市場
2009年の実績と2010年～2014年の予測：ユーザー実態調査」(J10360102)

2. 受注動向の変化

- ホスティング分野の売上構成比が増加するとともに、顧客分散が進む

主要サービス別 売上構成比



(※) 当グラフの売上構成比は、「その他サービス」の売上高を控除した、主要サービス（ハウジング、専用サーバ、レンタルサーバ、VPS）の売上高合計値から算出

月額料金別 売上構成比

	09年6月度	11年6月度
10万円未満	35.0%	39.3%
10万円以上 100万円未満	25.3% (608社)	23.2% (661社)
100万円以上 1,000万円未満	24.7% (70社)	24.4% (70社)
1,000万円以上	14.9% (5社)	13.0% (6社)

(※) 括弧内は事業者数

3. 2012年3月期 第2四半期以降の主要な取組み

IT インフラ

- ① 石狩データセンターの稼働

事業 サービス

- ② BCP/DR需要（ハウジングサービスなど）への対応
- ③ 次世代型の専用サーバサービスへ改定
- ④ クラウドサービスの提供



▲ 石狩データセンター（完成予定パース）



▲ 施工中の石狩データセンター
（2011年7月15日撮影）

- 国内最大級の郊外型大規模データセンターを北海道石狩市に建設

施設名	石狩データセンター
建設地	北海道石狩市
敷地面積	51,448㎡ ※最大8棟まで増築可能
建物構造	地上2階建・鉄骨造
建築面積	7,116㎡ (2棟)
延床面積	11,417㎡ (2棟)
ラック数	1,000ラック (1棟500ラック) ※初期は200ラックで稼働 ※最大4,000ラックまで増設可能
供給電力	標準8kVA/ラック ※最大15kVA/ラック
設計施工	大成建設株式会社
竣工時期	2011年11月 (予定)

特徴

A) 世界標準のコスト構造

- ✓ 北海道の外気を活用し、**空調コストを徹底的に削減**
- ✓ スケールメリットを活かし、共用設備や運用保守コストを削減
- ✓ 分棟式・分室式を採用し、需要動向に応じた**段階的な設備投資が可能**

B) 災害リスクの低いロケーション



▲ 施工中の石狩データセンター
(2011年7月15日撮影)

第1期工事・設備投資額

(単位：百万円)

科目	2011/3期	2012/3期（見込）	計
土地	375	—	375
建物・附属設備	1,062	2,300 ~ 2,400	3,362 ~ 3,462

※ 「工具、器具及び備品」については、今後のサービス戦略によって、購入する器材や調達時期が異なるため、表記しておりません。



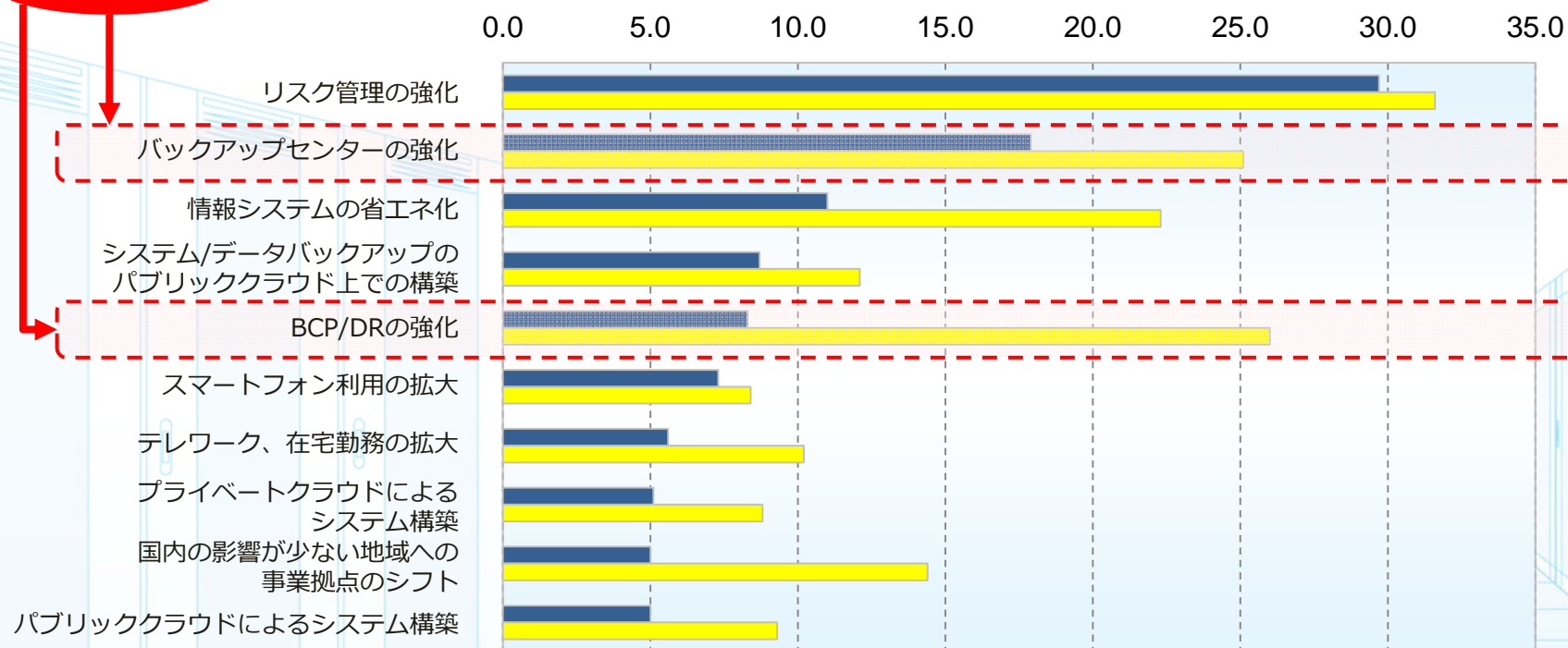
▲ 施工中の石狩データセンター（2011年7月15日撮影）

② BCP/DR需要（ハウジングサービスなど）への対応

- 石狩データセンターにおいてもハウジングサービスを提供し、**震災以降に急増したBCP/DR需要**などへの対応を図る

東日本大震災の影響によって高まった意識：上位10項目

ターゲット



(Note : 複数回答) ■ 全回答企業(n=1,943) ■ 従業員数1,000人以上の企業 (n=215)

出典：IDC Japan プレスリリース（2011年7月11日）「IT投資動向に関する国内CIO調査結果を発表」

③ 次世代型の専用サーバサービスへ改定

- 石狩データセンターの稼働により、実現が可能となる**次世代型**専用サーバサービス

専用サーバサービスの沿革	
1997年	専用サーバサービスの提供を開始
2003年	専用サーバサービスの全面リニューアルを行う
2004年	「さくらのレンタルサーバ」の提供開始
2007年	「専用サーバ Platform」の提供開始
2009年	「専用サーバ Platform St」の提供開始
2010年	「さくらのVPS」の提供開始
2011年	次世代型専用サーバサービスへと大改定(予定)

改定内容

- ① 操作性の強化
 - さくらのVPSと同等の直観的な操作性
- ② 拡張性と柔軟性の向上
 - クラウドサービスに匹敵する拡張性と柔軟性
- ③ スペック強化

顧客ターゲットのイメージ ①

- VPSサービスのヘビーユーザ層
 - 運営しているソーシャルゲームのユーザが増加し、現在利用しているVPSサービスの機能では、**パフォーマンスに物足りなさ**を感じてきたゲーム開発事業者



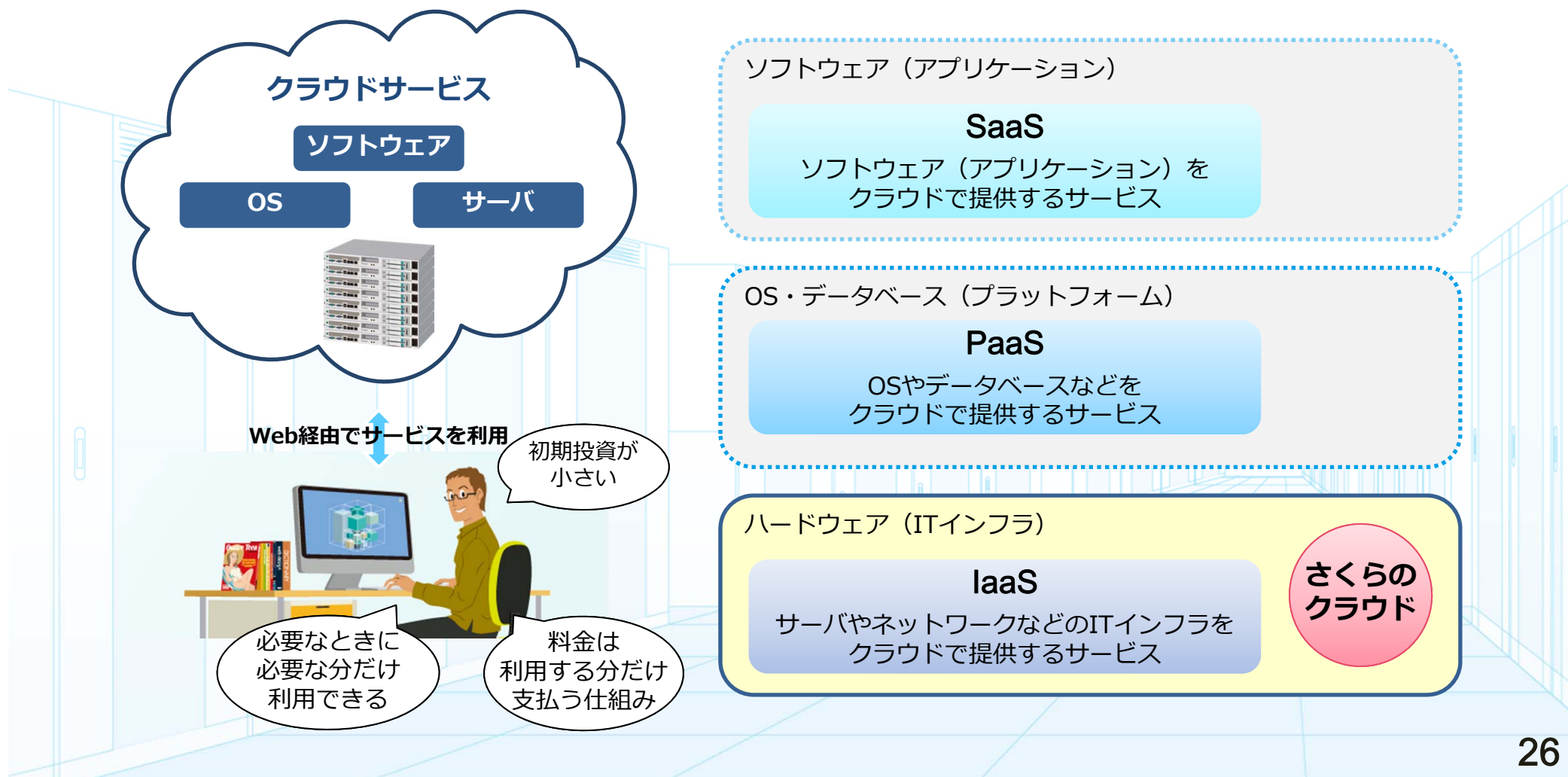
顧客ターゲットのイメージ ②

- クラウドサービスのユーザ層
 - キャンペーン期間も終了し、製品サイトへのアクセス数も落ち着いてきたので、**割高なクラウドサービスからスイッチ**したいメーカー



④ クラウドサービスの提供

- IaaS型クラウドサービスとして「**さくらのクラウド**」を提供
(石狩データセンターの稼働とあわせて提供予定)



- 当社だからこそ、実現できる**圧倒的なコストパフォーマンスとサービス柔軟性**

「さくらのクラウド」の特長

- ✓ シンプルな料金体系
利用するサーバのCPUとディスク容量に応じて課金
- ✓ 柔軟で自在性の高いサービスプラン
提供プランのラインナップを幅広く用意
- ✓ 優れたユーザビリティ
サーバを直観的に運用・管理できる機能を採用

< 顧客メリット >

予算化しやすい

事業ステージに応じた
組み合わせが可能

ITエンジニアの
作業効率向上

スケールメリット

(国内トップクラスの顧客基盤)

自社ITインフラ・開発機能

当社の強み

高いコストパフォーマンス

提供サービスの柔軟性

顧客が享受できるメリット

- クラウドサービスを提供することにより、器材の投資回収に要する期間は長期化するものの、**将来的には売上高と利益額に大きく貢献**する見込み

クラウドサービスの提供が当社に与える影響

キャッシュフローに与える影響

クラウドサービスを選択する
潜在顧客層が増加

初期費用収入
が減少

器材の
投資回収期間
が長期化

収益に与える影響

利益額が増加
↓
FCFが増加

競争力の源泉である
スケールメリットが
さらに増大

顧客数が増加
↓
売上高が増加

他社の
クラウドサービスに
移行した
顧客を引き戻し

3. 2012年3月期 通期見通し

- 売上高、営業利益、経常利益については、概ね計画どおりの進捗
- 石狩データセンターの稼働に向けた経費発生が見込まれるため、第2四半期以降の各会計期間における利益は、第1四半期と比べて減少する見込み

(金額：百万円)

科目名	2012/3期 Q1累計実績	2012/3期 Q2累計予想	2012/3期 通期予想
売上高	2,272	4,600	9,400
成長率 (%)	8.5	9.2	9.5
営業利益	310	520	740
成長率 (%)	△1.3	△20.6	△39.6
経常利益	299	500	700
成長率 (%)	△3.2	△22.6	△41.4
四半期純利益	229	280	400
成長率 (%)	111.5	△6.3	△30.2



- ※ 当資料に掲載されている業績予想などは、資料作成時点における弊社の判断に基づいており、その情報の正確性を保証するものではありません。
さまざまな要因により、当資料記載の業績予想とは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

■ IRに関するお問い合わせ先

さくらインターネット株式会社 東京支社

Tel : 03-5332-7077

E-mail : ir@sakura.ad.jp

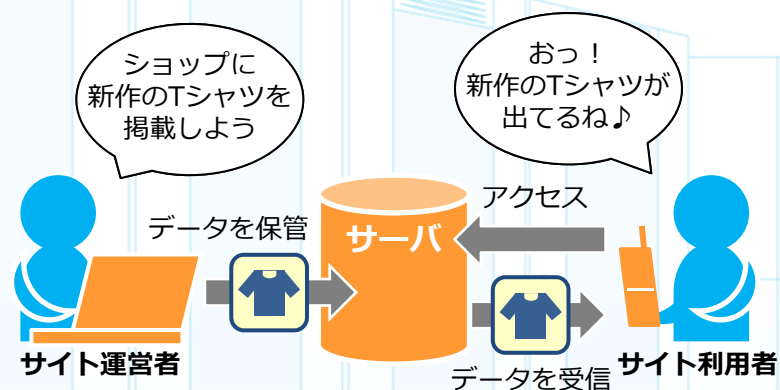
担当 : 岡本

付録

■サーバとは？

インターネットから閲覧するホームページや動画、ブログなどのコンテンツデータは、「サーバ」と呼ばれるコンピュータに保管されています。利用者は、そのサーバにアクセスすることで、保管されているコンテンツデータを利用することができます。

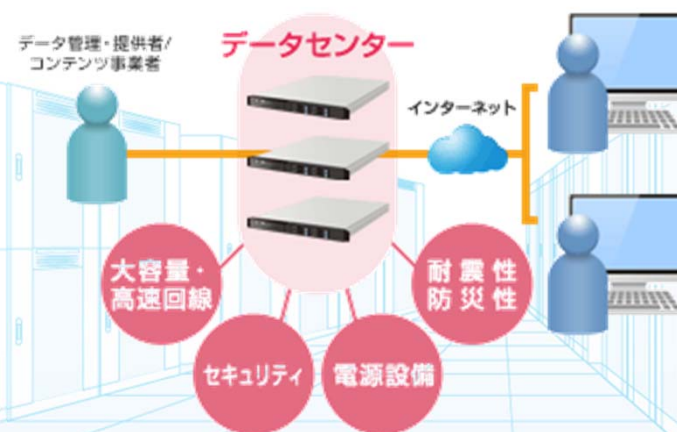
(例) ECショップの場合



■データセンターとは？

サーバを設置・管理することに特化した施設をデータセンターと言います。

さくらインターネットでは、安全で快適なインターネット環境を利用者に提供するために、国内データセンター事業者の中ではトップの通信回線容量を自社で確保し、高度なセキュリティと堅牢な設備環境を備えたデータセンターを自社で運営しています。



■コロケーションとは？

コロケーションとは、通信回線や電源設備などの環境が整ったデータセンター内で、お客様が所有するサーバなどの機器類を設置するスペースなどを提供するサービスです。このサービスは、通常、お客様自身で機器類の設定や管理などを行う必要があるため、データセンターのアクセス利便性が求められます。

■ホスティングとは？

ホスティングとは、データセンター事業者が所有するサーバをお客様にお貸しするサービスです。このサービスは、機器類の設定や管理などをインターネット上で行うことができるため、コロケーションのようにデータセンターのアクセス利便性は求められません。

ハウジング サービス



コロケーション

専用サーバ サービス



専用サーバ Platform St
専用サーバ Platform Ad
専用サーバ 複数台構成 オプション

最大20台

1~4台

VPS サービス



さくらのVPS

レンタルサーバ サービス



さくらの
マネージド
サーバ

さくらの
レンタル
サーバ

1台を専有

1台を共有

ホスティング

■ハウジングサービス

顧客が所有するサーバなどの通信機器類を、当社が運営するデータセンター内に設置するスペースとともに、インターネット回線や電源などを貸与するサービスです。

■専用サーバサービス

当社が所有するサーバを専用で貸与するサービスです。

独自にサーバの設定が可能であることや、ソフトウェアのインストールに制約がないなど、レンタルサーバと比べて自由度の高いサービスです。

■レンタルサーバサービス

当社が所有するサーバを、複数の顧客に共用で貸与する「さくらのレンタルサーバ」と、1台専用で貸与する「さくらのマネージドサーバ」サービスがございます。

サーバの設定やソフトウェアのインストールには一定の制約がございますが、専門知識を要するサーバのメンテナンスなどは当社が代行いたしますので、顧客の運用負担が大幅に軽減されるのが当サービスの特徴です。

■VPSサービス

仮想化技術の導入により、1台のサーバ上に複数の仮想サーバを構築し、あたかも1台の専用サーバのように独占して利用できるサービスです。

レンタルサーバ並みの安価な料金で、専用サーバ並みの機能を利用することができることから、今後も需要の拡大が見込まれております。

特に当社が提供する「さくらのVPS」は、インターネットを介して直観的にサーバの管理・運用ができる点、選択可能なOSが豊富である点、申込み後短時間でサービスが利用できる点などが高く評価されております。



当社は、国内インターネット黎明期から、ITインフラの調達やサービス開発・運用、顧客サポートといったデータセンター事業に係るバリューチェーンを幅広く対応してきました。その結果、市場競争力の高いサービス提供体制を実現でき、国内有数の顧客基盤を持つデータセンター事業者にまで成長することができました。

1. 自社ITインフラ

自社でデータセンターを運営しているため、自社ホスティングサービスの提供に最適な施設や設備の設計が可能となり、また顧客の様々な要求にも柔軟に対応できる運営管理体制も整備されています。さらに、国内データセンター事業者としてはトップ規模となる通信回線（バックボーンネットワーク）容量も、自社で確保していることから、安定した高速インターネット環境を安価で顧客に提供できるようになりました。

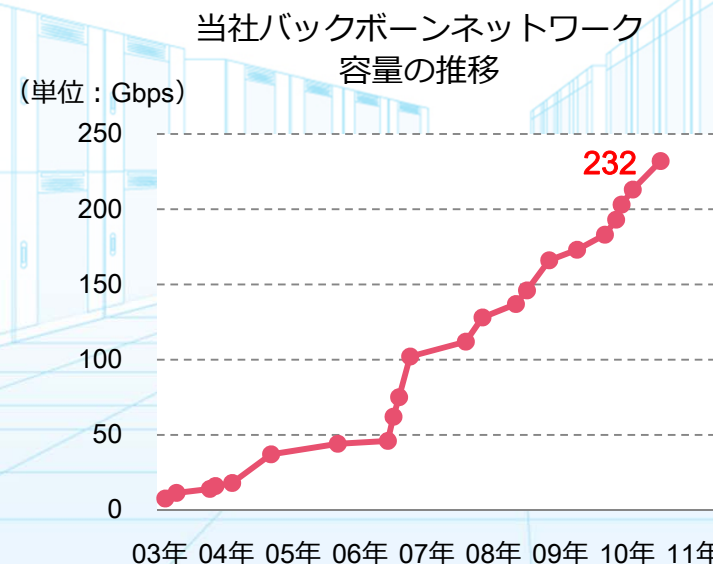
これらの取組みにより、顧客満足度の向上とともに、サービスコストの低減化が図れています。

2. サービスの自社開発・運用体制

当社はサービス企画からシステムの設計や開発、設備の運用・保守、顧客サポートといった、サービス提供に係る全ての工程を社内で一体的に取り組む体制を採用しています。そのため、顧客（主にITエンジニア）の多様なニーズにマッチしたサービスを、スピーディーに開発・供給できる環境を実現しています。

3. ブランド・顧客基盤

コストパフォーマンスに優れ、ITエンジニアの利便性と生産性を高めるサービスを、長年提供し続けてきたことにより、当社は多くの顧客から支持を集めています（ホスティングサービスの利用件数は30万件を突破）。



■顧客の各成長ステージに応じた幅広いサービスラインナップ

当社は、コロケーションからホスティングまで、データセンターに関するアウトソーシングサービスを、幅広く提供しています。そのため、顧客の各成長ステージに適したサービスを、シームレスに提供できる体制となっています。

アーリーステージ

新しいソーシャルゲームを開発しよう！



最初はどれだけアクセスがあるかわからないし、手軽なVPSにしようかな。

事業成長

ミドルステージ

コンテンツの利用者が増えたぞ！



大量のアクセスに耐えられるように、専用サーバを借りよう！

■当社がハウジングとホスティング双方を同規模で展開できる理由

他のデータセンター事業者は、コロケーションかホスティングのいずれかに偏ったサービス展開をしており、当社のように双方の分野を同規模で展開している事業者はありません。それは、コロケーション、ホスティングのどちらも、ゼロから始めるには難しいビジネスだからです。

コロケーションは、自社でデータセンターを確保しなければならず、多額の設備投資が必要となります。一方、ホスティングは、自社サービスのブランド力を高め、一定の顧客基盤を獲得しなければ、他社とのコスト競争に勝つことはできません。

当社は国内インターネットの黎明期から、いち早く自社でデータセンターを運営し、コロケーション、ホスティングの双方を展開してきました。このため、インターネットの発展と当社事業の成長に合わせて無理なくデータセンターを拡充させることができ、その結果、高い市場シェアを獲得することができました。

その結果、当社はデータセンター事業者としては珍しい、特定の顧客に依存しない売上構成となっています。

■地震発生リスク

今後30年間 震度6弱以上の地震が発生する確率：0.1～3%

※地震調査研究推進本部（地震ハザードステーション J-SHIS）「今後30年間 震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」の分布図より

■津波リスク

想定される地震発生に伴う津波が、建設地の属する地域に到達する最高点：4.7m（建設地の地盤高：5.5m～）

※北海道総務部危機対策局「津波シミュレーション及び被害想定調査業務（北海道日本海沿岸）報告書」より

建設地最寄港の観測結果		
北海道南西沖地震	1993年	最大0.7m
東日本大震災	2011年	最大0.4m

■液状化リスク

液状化が発生する確率は低い
仮に発生しても沈下量は小さく、影響は限定的

※石狩データセンターは二層構造で、建物重量も比較的軽い



確率0(%)のメッシュは無色です。

